

県下の交通事故

(平成10年11月20日現在)

年別	区分	発生件数	死者	傷者
平成9年		5,713件	96人	7,625人
平成10年		5,736件	88人	7,684人
比較		+23件	-8人	+59人



◇ 第125号 ◇
 発行所 甲府市丸の内一丁目9-11
 〒400-0031 県民会館2階
 財団法人 山梨県交通安全協会
 山梨県交通安全活動推進センター
 TEL 甲府 (0552) 32-4682
 (0552) 37-7827



交通事故防止を訴える「大名行列」パレード

運動の重点

- 一 高齢者と子供の交通事故防止
- 二 若者の無謀運転及び暴走族の追放
- 三 シートベルト着用徹底

年末年始の交通事故防止県民運動

12月10日(木)から
 1月10日(日)まで

年末年始の交通事故防止県民運動は、年末年始には帰省客が増えて交通が混雑し、あわただしさに加えて飲酒の機会が増えることから、県交通安全本部・県交通安全推進協議会が主催し、県、県警察、市町村、県交通安全協会等関係機関、団体を中心となり、本県独自の運動として、県民総ぐるみの交通事故防止活動をすすめていくものです。

交通事故を防いで

笑顔でお正月を

全国の交通事故による死者は、十一月二十日現在、七千七百九十三人で昨年より四百七十九人減少し、昨年を引き続き一万人を切るものと思われ。県内の交通事故死者は、十一月二十日現在、八十八人で昨年と比較して八人減少していますが、件数、傷者については増加傾向にある。死者二桁達成に向けて懸念の努力が続けられています。運動の重点は、交通事故の原因を分析し特に注意していただきたい点を掲げたものです。

●飲酒運転の絶滅 飲酒運転による死亡事故は十六件、死者二十二人で全体の二五％となっています。

●若者と高齢者の事故防止 若者の死者は十八人で全体の二〇・五％、高齢者の死者は二十四人で全体の二七・三％となっており、死者二桁達成に向けて全体の四七・七％で高い率を占めています。

●シートベルト着用徹底 死亡事故における着用義務者五十一人中、着用者十二人で着用率二三・五％となっており、依然として着用率は低くなっています。



交通安全

交通事故の大部分は交通マインドと交通マナーに係るものです。交通安全の基本である交通安全の要として欠かすことのできない交通道徳・規範・社会性などに基づいた自発的な交通安全の「こころ」と「おこない」つまり、交通事故を減少させていくためには交通安全マインドと交通マナーの向上が必要不可欠であります。

しかし、本県の交通事故の特徴の一つとして、飲酒がらみの事故が多いことが挙げられますが、特に、死亡事故に占める割合は、昨年は全体の二一・四％に達し、全国平均(一一・五％)を大幅に上回っています。

世の中に過ちというものは多いものですが、飲酒運転という行為には全く弁解の余地はありません。「俺は酒が強いからこの位なら大丈夫」とか、この作戦は、これまでも県内の各警察署単位で実施してきた飲酒運転の取締を全体的により一層強化し「県内一斉取締り」や複数の警察署でつくる「ブロック単位での取締り」、時間単位で取締場所を移動する「機動的ミニ検問」さらには、幹線道路沿線各警察署が時間差をつけて取締まる「ドミノ式取締り」等を展開するものです。また、これらの飲酒運転を重点とした取締りのほか、各警察署単位で飲酒運転が多発している幹線道路をモデル地域に指定し、地域ぐるみで各種の防止対策を推進していくこととしています。

飲酒運転追放を願って



県警交通指導課長 永井憲二

「水だと思った」などという詭弁は通用しません。飲んだことをわかっていて運転するのですから正に犯罪行為です。

本年も、九月末現在、飲酒がらみの事故により、一八名(一八・五％)の尊い命が失われています。こうした実態を踏まえ、死亡事故に占める割合は、昨年は全体の二一・四％に達し、全国平均(一一・五％)を大幅に上回っています。

世の中に過ちというものは多いものですが、飲酒運転という行為には全く弁解の余地はありません。「俺は酒が強いからこの位なら大丈夫」とか、この作戦は、これまでも県内の各警察署単位で実施してきた飲酒運転の取締を全体的により一層強化し「県内一斉取締り」や複数の警察署でつくる「ブロック単位での取締り」、時間単位で取締場所を移動する「機動的ミニ検問」さらには、幹線道路沿線各警察署が時間差をつけて取締まる「ドミノ式取締り」等を展開するものです。また、これらの飲酒運転を重点とした取締りのほか、各警察署単位で飲酒運転が多発している幹線道路をモデル地域に指定し、地域ぐるみで各種の防止対策を推進していくこととしています。

飲酒運転をなくすことができれば、死亡事故は確実に減少し、これが他の面にも効果的に作用していくと認められます。「少々量なら」と、酒の上での運転を容認する傾向にある県民意識を改めることこそ、第一の課題であると考えます。交通マインド(心)交通マナー(行い)の向上が「飲酒事故の絶滅」につながることを確信しています。



今年も残すところ僅かになりました。振り返ってみると今年、長期化する経済不況、毒物混入事件等暗い話題の多い一年でした。

一方、交通事故による死者は十一月二十日現在七千七百九十三人で三年連続して一万人を下回る見込みです。また県内死者数は八十八人で昨年より八人減少していますが、件数・傷者は増加傾向にあり、死者数二桁の目標達成に向けて努力が続いています。

●今年県内で発生した交通事故の原因は、第一位前方不注意、第二位安全不確認、第三位ハンドル操作不適、第四位動静不注意、第五位一時不停止の順となっており、これらの原因で全事故件数の七七・八％を占めています。

●この事故原因については、共通していることは、なんとも締まらない「脇見」「ぼんやり」「うっかり」「ほんやり」といった漫然運転によるものであるということです。

●運転免許取得試験は、技能試験が七十点ないし八十点、学科試験が九十点で合格ですが、安全運転は九十九点でも不合格です。というのは、一点でも事故を起こす可能性があるため常に百点満点でなくてはならないからです。ハンドルを握る時は、漫然運転を戒め、常に百点満点の安全運転を心がけたいものです。

優秀安協に南部・葦崎

優良安協は長坂・上野原

管区表彰一団体・事業所、十一人 交通安全賞章緑十字銅章一一〇人

交通安全功労者・優良運転者

478人、19団体、1事業所表彰



県立文学館での表彰式

県警察本部と県交通安全協会主催の平成10年度交通安全功労者・優良運転者等の表彰式が、十月二十八日山梨県立文学館で開催されました。

表彰式には、天野建知事、堀江信之甲府地方検察庁検事正ら多数のご来賓のご出席をいただき受賞者をはじめ交通関係機関・団体の役員等約五百人が出席して厳粛かつ盛大にとり行われました。

表彰式は、まず全員で交通事故による犠牲者に追悼の黙祷をささげたのち、中林県警本部長と山下県安協副会長が主催者

あいさつを行い、次いで表彰が行われました。

受賞者は、多年にわたる交通事故防止に功績のあった交通安全功労者と団体及び日頃交通安全活動に取り組んでおり功労のあった交通安全協会や同役員、永年無事故・無違反での模範とされる優良運転者、また多年職務に精励し功績のあった優良職員等十九団体、一事業所、四百七十八人に表彰状・感謝状と記念品が贈られました。

最後に山梨県中学生交通安全弁論大会の優勝者大月東中三年坂本しずかさん、準優勝の須玉中三年大森啓一君の弁論発表があり、参加者に深い感動を与え、盛会のうちに閉会しました。

受賞者は次のとおりです。(敬称略)

○関東管区表彰
交通安全功労団体
昭和町立押原小学校
交通安全優良事務所
大仲運輸株式会社
優良運転者
小田切貢、鈴木国広、望月省吾、山本英雄、水上宝、中村嘉仁、橋爪進、佐藤猛、田辺信義、柳場勇、森田和彦

○交通安全賞章
緑十字銅章
交通安全功労者
秋山静夫、高橋良太、

中島雅榮、高山茂雄、藤原紀男、遠藤紀寿、植田久男、小井功、齊藤勇美、石倉民子、名取洋行、清水准一、小沢猛、矢崎俊秀、南湖美幸、小林武、森本寿美子、保坂亨、小林勝徳、望月千代子、伊藤文雄、佐野清、青木良治、遠藤昭、諏訪一彌、岡村勝美、岡田弥生、市川正勝、渡辺政茂、辻正三、水地寛、岩間正興、小泉勝夫、古屋正、関戸政富、山田久子、藤井与三郎、渡辺進、山口孝雄、能登健二、小笠原礼子、木下盛雄、降矢量男、萩原公明

〔優良安全運転管理者〕
金井茂晴、中込敬一、永関英雄、望月喬、竹元哲大、清水文勝

〔優良運転者〕
井上清志、二宮朝夫、藤森佐智雄、岡崎利行、山本進一郎、橋爪勝、橋戸金仁、石川貞吉、古屋通政、関孝太郎、三枝秀武、仲沢茂夫、相川泉、中込米男、河野元夫、志村明宣、三枝一雄、生田賢二、野口五男、堀内芳文、小川政秀、植松政廣、青木四郎、中野喜代子、鍋田順子、望月久恵、石部久寿、小林勇、小澤久彌、河野東洋男、保坂ヨシ子、雨宮茂貴、萩原明人、日原啓喜、望月元三、山崎洋子、湯川政義、高部愛明、高村亦男、渡邊誠、石橋源藏、渡辺卓也、堀内弘一、流石奉明、天野猛雄、天野喜志雄、菊池重光、久島波江、鶴田勝、武井一也、二井仁、伊藤和博、柏木誠、飯高三郎、岡本明雄、横打勤次、杉山康雄、桑原孝夫、森本孔司、野澤昭則

○県警本部長・県安協会長連名表彰
優秀賞 南部、葦崎
優良賞 長坂、上野原
努力賞 南甲府、大月、都留

○県警本部長・県安協会長連名感謝状(賞状)
交通安全功労者
広瀬誠、長田良行、岸ユキ、齋藤元春、小林邦子、小宮山睦子、小林是綱、尾谷良行、渡辺弘、土橋壽

〔交通安全功労団体〕
〔南アキド精密〕榎土曜会、望月鉄工(株)、映北支部(葦崎地区) タクシー協会、(株)東京電力山梨支店、山梨一宮農業協同組合、富士吉田交通安全協会、鳴沢支部、富士吉田市立明見小学校、大月市老人クラブ連合会、(株)オリムピックカントリークラブ

〔交通安全功労役員〕
井上聡一郎、坂本定男、羽田猛、山村勝、土橋品一、藤盛栄造、植田久男、保延健二、鈴木幸男、鈴木晴雄、岩澤一三、清水借征、池谷洋見、大久保治郎、黒倉昭栄、藤本寛、宮川巖、高橋武、鷹野勇三、桜林正之、佐久間雅彦、新津正彦、小林太郎、深澤米男、齋藤秀男、戸嶋幸一、植村昭夫、糸川泰弘、堀内健光、矢崎一郎、清水昭雄、小松攻一、中澤悠、渡辺威、新海洋雄、清水得造、千野富造、中沢昭、仙洞田昭夫、雨宮正美、望月一人、早川兵郎、青木良治、久保田金雄、稲葉一郎、遠藤稔、入月幹夫、市瀬夫、北條茂、依田雅巳、小尾勝、上田正巳、松浦昭夫、風間稔、齊藤正直、赤澤正三、飯高初男、広瀬宏、古屋光二、窪田保信、小林政雄、鶴田公義、内藤進、金子信一、宮本英明、佐藤勝、坂本上郎、山口一郎、谷内道男、志村英治、長田門昭、上野清彦、平本温彦、高村利

松田良一氏(前県安協副会長) 藍綬褒章を受賞



松田良一氏

山梨県交通安全協会前副会長、(前)小笠原安協(会長)の松田良一氏は、十一月二日付、秋の褒章で藍綬褒章を受章しました。

松田氏は、昭和二十九年に小笠原安協評議員に就任して以来、四十四年

貢雄、三浦紀元、小山田夫、小林正三、内藤滝雄、半田幸久、伊藤満三、内藤久雄、吉村和夫、桑田重春、西室孔永、小林チヨ子、水越文雄、佐藤一六、井上喜高、白倉勝雄、河村ナカ子、松木照明

〔優良運転者〕
飯島正紀ほか二四八人

○県安協会長賞
〔永年勤続職員〕
野沢昭則、青島春男、深沢秀春

〔優良職員〕
加賀美忠、田中登起子、石原陽子、岡田美春

つてもらい、注意してもらおうという方法で活用されます。

県内においても、警察署と地区交通安全協会が協力して、高齢者に呼びかけ、多くの地域でこの「ヒヤリ地図」づくりが進められています。

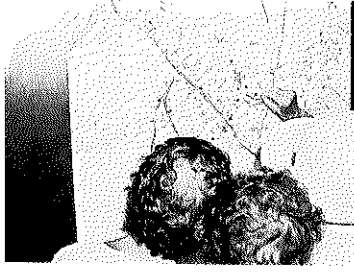
各地域で作成された「ヒヤリ地図」については高齢者に危険な場所を知ってもらうため、注意してもらって交通事故防止に役立てることとしています。

最近「ヒヤリ地図」という言葉を聞くことがあり、これには各地域の高齢者のヒヤリ体験をもとに、高齢者自身が危険マップを作りそれを交通安全に役立てようとするもので、参加・体験・実践型の安全教育の一つの手法であり、作られた計画のついでに体験するのは、高齢者自ら計画・実践していくことから、高齢者にも交通安全に関心を高めることができるなど大きな期待が寄せられています。

「ヒヤリ地図」作りは高齢者白らが、

○歩行中、自転車や自動車にヒヤリとした体験をした場所

○車両を運転中、歩行者や自転車にヒヤリとした体験をした場所



この「ヒヤリ地図」が完成したところで、多くの高齢者がヒヤリ体験をしている場所はどこか、等を確認し、事故発生場所が一致しているところは最も危険な場所であること、また、事故が発生していても多くの高齢者がヒヤリ体験しているところは潜在的な危険地点であることを知

財団法人
山梨県交通安全協会経営

公認 **山梨自動車学校**

中巨摩郡八田村野牛島1828
(運転免許センター内)
TEL (0552) 85-0752

自動車や原付自転車には
必ず任意の自動車保険
任意の自動車保険
任意の自動車保険
任意の自動車保険

損害保険代理店
株式会社 たいよう共済山梨支店

甲府市丸の内2丁目32-13
日東ビル4階
TEL0552-28-0691

第四〇回山梨県中学生交通安全弁論大会

坂本しずかさん(大月東中3年)が優勝

地区代表17人が熱弁

山梨県中学生交通安全弁論大会

主催/山梨県警察本部・財団法人山梨県交通安全協会



熱弁を振るう地区代表

県警察本部と県交通安全協会の主催による第四〇回山梨県中学生交通安全弁論大会が、十月九日甲府市内のニュー機山で開催されました。

大会には、県内十五地区の予選大会で優勝し地区代表となった十七人の中学生が持ち時間七分で白らの体験等を通じて見出した交通安全のための提言を熱心に訴えて参加者に強い感銘を与えました。

審査の結果「心のすき間」(別掲)と題して、車社会に生きるすべての人が、「一瞬の心のスキ間」を作らないことの重要性を訴えた、大月東中三年生の坂本しずかさんが優勝し、知事賞と優勝旗が贈られました。

受賞者は次のとおりです。
〔優勝〕 山梨県知事賞・優勝旗 大月東中三年 坂本しずか

〔優秀賞〕 以下出場順
渡邊恵(橋形中) 網野樹理(桐原中) 若林優美(富河中) 青柳舞(六郷中) 村松あずさ(甲府東中) 天野加菜(大和中) 前澤佳美(浅川中) 秋山大地(山梨南中) 早川菜里(都留第二中) 猪狩そよ子(笹南中) 恒川すみれ(泉中) 林大輔(甲府東中) 内藤舞(甲府北西中)

〔準優勝〕 山梨県議会議長賞 須玉中三年 大森 啓一
山梨県警察本部長賞 中富中三年 笠井 珠里
山梨県教育長賞 河口湖北中三年 高山 健

安協だより

当協会の管内には、恵林寺、大菩薩峠、勝沼ぶどう郷、日川渓谷などの観光地があり、大小合わせると二百四十もの神社仏閣があることから、訪れる観光客も多く、シーズンともなると交通量が激増し、交通渋滞や交通事故が多く発生しています。また今年一月には「雁坂トンネル」が開通し、今後ますます観光客の増加が予想され交通事故の増加が懸念されることから、警察と協力して新たな交通安全対策を練っている昨今です。このほか、管内は祭典

が多く、恵林寺の「信玄公祭り」、向嶽寺の「秋葉さん」、大菩薩の「藤切り祭り」、勝沼の「ぶどう祭り」の人出は十万人を数え、およっちょい祭り、トークマラソンなども行われているため、協会役員もこれらのお祭りや各種交通安全運動、

利用者の意識の問題で、道路を利用するすべての人が、思いやりの心をもつて、定められたルールを守ってくださるれば交通事故の多くは防げるものと思います。当協会では、平成八年から、「塩山GOOGOGO作戦」と銘打った無事

交通事故ゼロを願って



塩山安協会長 植野友規 (県安協副会長)

各地域での行事に多く出動するが、これは管内に居住する人は勤務している人を対象に、五人一組として一定期間無事故無違反であった人を賞揚し、交通安全への動機付けを図ろうとするものです。期間は当初百日としていましたが、現在では三百日間に延長し、本年九月二十一日から来年七月一七日までの間、百八十二組、延べ九百十人が参加しています。

この運動を開始以来、参加者も回を増すごとに増え、管内住民のみならず、交通安全への取り組みが拡大してきていることを実感しているところでもあります。このほか今年、県内で発生する交通事故の中で飲酒運転の占める率が高いため、県警察では「SDD作戦」を展開しています。この作戦の原点が家庭・地域であることから、当協会もこの運動に参加して、山下、地域での飲酒運転追放に努力しているところです。

地域の発展のためには人々が安心して暮らせる環境づくりが必要であり、当協会もその一翼を担っているとの自負を支えに、今後とも、交通事故のない安全な環境づくりのために取り組んで参りたいと思います。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

この期間中に誕生日のある方で手続きができた方は一月四日に必ず手続きをしてください。八山村の運転免許センターでは祭日と土曜日(年末年始は除く)は休みですが、日曜日は更新業務のみ窓口を開設し更新者の便利を図っています。ご利用してください。ただし、午前中は込み合いますので、なるべく午後をご利用ください。(運転免許課)

心のすき間



大月市立東中学校 坂本しずか

「全身が凍りつく」切な面談に遅れてきた母の言葉、生まれて初めて実感しました。それは何の前触れもなく、私を襲ってきたのです。七月十三日、その日私は、学期末の三者面談で母が学校へ来るのを待っていました。ところが、予定の時間になっても母はなかなか学校へきません。夕方、辺りが暗くなりかけようとする頃、ようやく母が顔を見せました。母は、「学校へくる途中に事故があって、道路の渋滞で遅れてしまった」と息を切らしながら、教室へ駆け込んできたのです。その時はまだどんな事故が起こったのか、知るすべもありませんでした。

事故の現場は、私の家から百メートルほど坂道を下った、中央道の端のたもとでした。息せき切った母と私。大月市立東中学校 坂本しずか

「言葉では言い表せないほどの哀しみと、大きすぎる恐怖に、ただ立ちつくし震えるばかりです。誰も、起そうと思っても、事故を起こす人はいません。でも、ほんの一瞬に起きてしまう事故のどこかに、ほんの一瞬の心のスキが潜んでいるのではありませんか。その心のスキは、いつも事故と無縁であったことからの「慣れ」から来るのかも知れません。自分だけが事故を起こすはずがないという「過信」から来るものかもしれません。な

おじいちゃんの命を奪った交通事故から三ヶ月が過ぎます。登下校のスクールバスの窓から、毎日あの事故現場を目にします。避けようとして、必ず目に飛び込んできます。私にいろんなことを教えてくれたおじいちゃんでした。亡くなった今も、「しずか、心のスキを閉めておいてね」と毎日私に声をかけてくれていたように感じます。シートベルト

この期間中に誕生日のある方で手続きができた方は一月四日に必ず手続きをしてください。八山村の運転免許センターでは祭日と土曜日(年末年始は除く)は休みですが、日曜日は更新業務のみ窓口を開設し更新者の便利を図っています。ご利用してください。ただし、午前中は込み合いますので、なるべく午後をご利用ください。(運転免許課)

山梨県 警察本部より お知らせ

この運動を開始以来、参加者も回を増すごとに増え、管内住民のみならず、交通安全への取り組みが拡大してきていることを実感しているところでもあります。このほか今年、県内で発生する交通事故の中で飲酒運転の占める率が高いため、県警察では「SDD作戦」を展開しています。この作戦の原点が家庭・地域であることから、当協会もこの運動に参加して、山下、地域での飲酒運転追放に努力しているところです。



秋の全国交通安全運動

秋の全国交通安全運動は九月二十一日から三十日までの十日間、高齢者の交通事故防止、シートベルト着用徹底を運動の重点として全国一斉に行われました。

その結果、期間中の県内交通事故発生状況は、事故件数二百二十一件(前年比七件減)、負傷者数百六十六人(前年比二十一人減)で件数・傷者は減少しましたが、死者数五人(前年比三人増)という残念な結果に終わりました。

期間中の各安協の活動の一部を紹介します。



交通安全教室の開催(甲府)



「ハヶ岳作戦」出発式(長坂)



交通安全のど自慢大会の開催(韮崎)



交通少年団員による街頭活動(小笠原)



シルバー交通安全クラブ結成式(南甲府)



交通安全体験フェアの開催(石和)



夕暮れ交通安全教室の開催(市川)



街頭キャンペーン開会式(南部)



チャレンジ100作戦出発式(鯉沢)



市民交通安全大会の開催(大月)



街頭指導所の開設(富士吉田)



GOGOGO作戦出発式(塩山)



ファッションショーの開催(日下部)



交通安全町村民大会の開催(上野原)

ブロック会議を開催

峡西・北、峡東ブロック

県下の交通安全協会では、地域に根ざしたより効果のある交通安全活動を行うことを目的として、毎年一回数安協の正副会長で構成するブロック会議を開催して意見交換を行い活動に反映させています。



ブロック会議の状況

には、講師、助言役として、県警交通部から今福参事官、県安協から奈良田専務等が出席し、ブロック内からは、各警察署長及び各交通安全協会正副会長等二十九名が出席しました。

小笠原、韮崎、長坂の三交通安全協会が構成する峡西・北ブロック会議が、十一月十三日白根町内、また、石和、日下部、塩山の三交通安全協会が構成する峡東ブロック会議が十一月二十五日に石和町内で開催されました。

会議は、藤本小笠原警察署長および名取小笠原交通安全協会長がいさつを行い、続いて県警交通部今福参事官が交通情勢を説明したのち、交通事故を減少させるため交通関係団体の中核である交通安全協会の一層の活躍を期待する旨の激励と奮起を促しました。

今後、甲府、峡南及び郡内地区でも同様のブロック会議を開催することにしていきます。

婦人部の活動

反射材販売コーナーを設置

甲府安協婦人部

甲府交通安全協会(秋山登会長)婦人部(横田綾子部長)では十月十八日開催された「甲府大好

きまつり」の会場となった甲府市役所駐車場へ反射材の展示即売コーナーを設け、婦人部員三十人が出て、各種の反射材を展示即売しました。



反射材を展示即売する婦人部員

交通安全レター作戦を実施

韮崎安協婦人部

韮崎交通安全協会(山寺喜一郎会長)婦人部では、増加する高齢者の交通事故を防止するため秋の交通安全運動期間中「交通安全レター作戦」を実施しました。



高齢者宅を訪問する婦人部員

交通安全ファミリーリーダー委嘱式

内の運転免許を保有する高齢者二千六百人の自宅を訪問し、警察署長と協会長名の交通事故防止を呼び掛ける手紙とチラシを直接高齢者に手渡ししながら事故防止を呼びかけました。